

外来魚の生息状況と その脅威について

福井県水産試験場
内水面総合センター
竹内 一貴



①内水面センターの調査状況

②外来魚の危険性について

③私たちにできること

①内水面センターの調査状況

②外来魚の危険性について

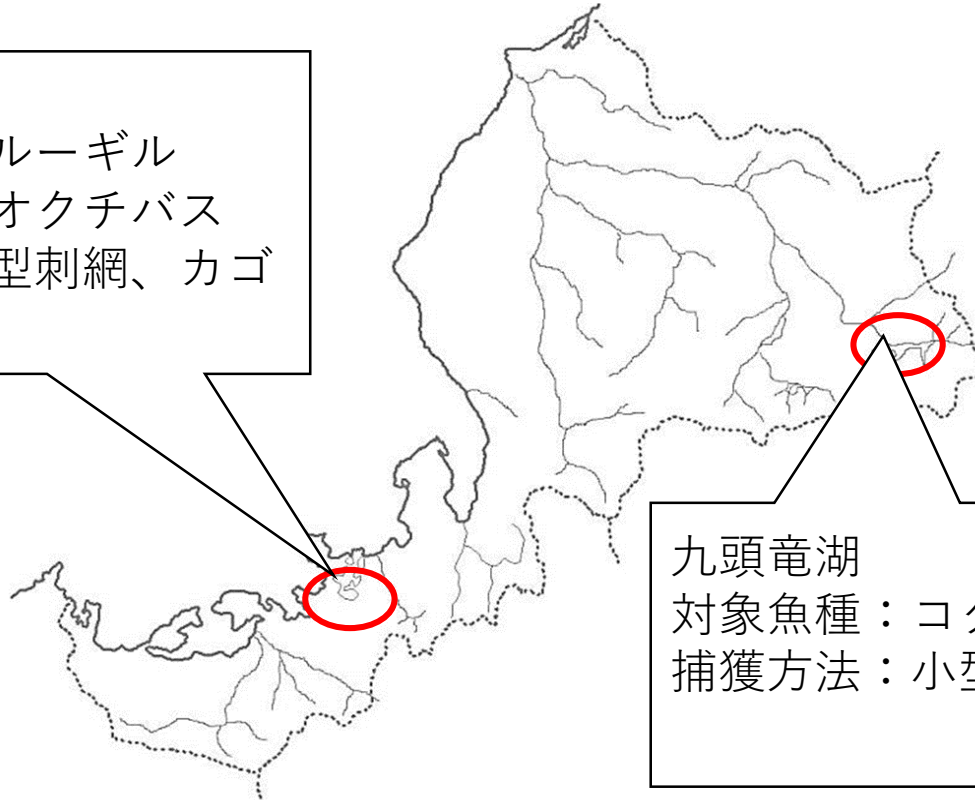
③私たちにできること

外来魚生息調査事業について

三方湖

対象魚種：ブルーギル
オオクチバス

捕獲方法：小型刺網、カゴ



九頭竜湖

対象魚種：コクチバス

捕獲方法：小型刺網、大型刺網



ブルーギル

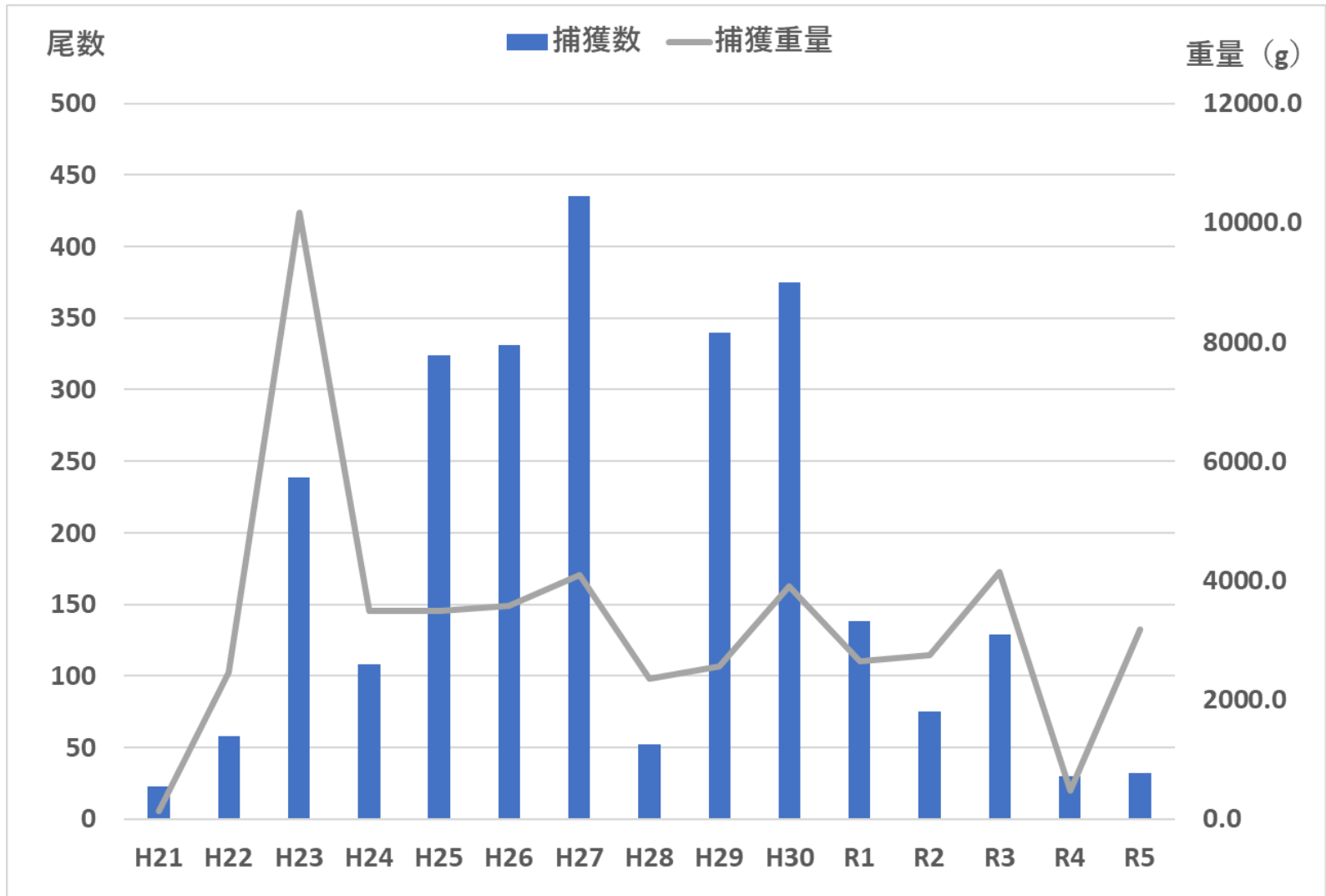


オオクチバス



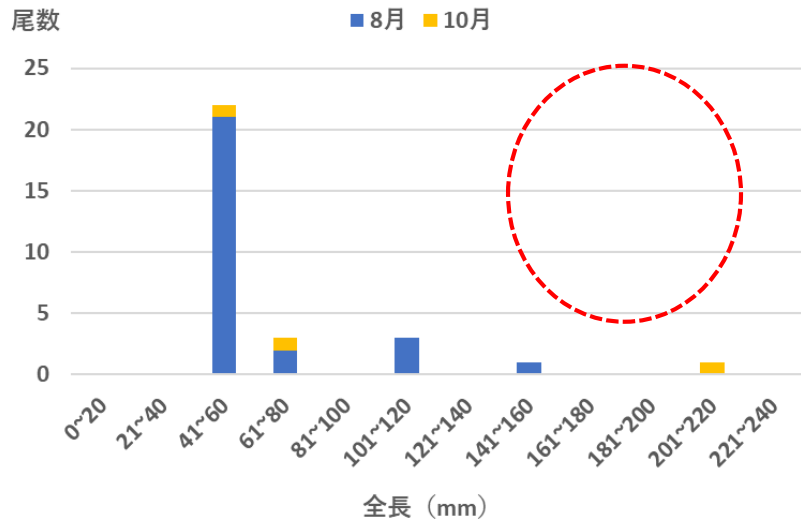
コクチバス

近年の調査状況（三方湖ブルーギル）

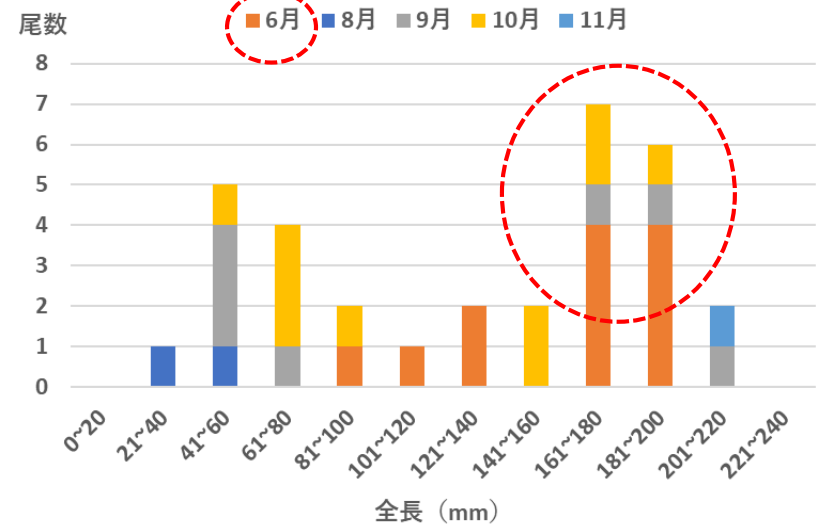


捕獲数は減少傾向だが、捕獲重量は横ばい状態にある

近年の調査状況（三方湖ブルーギル）



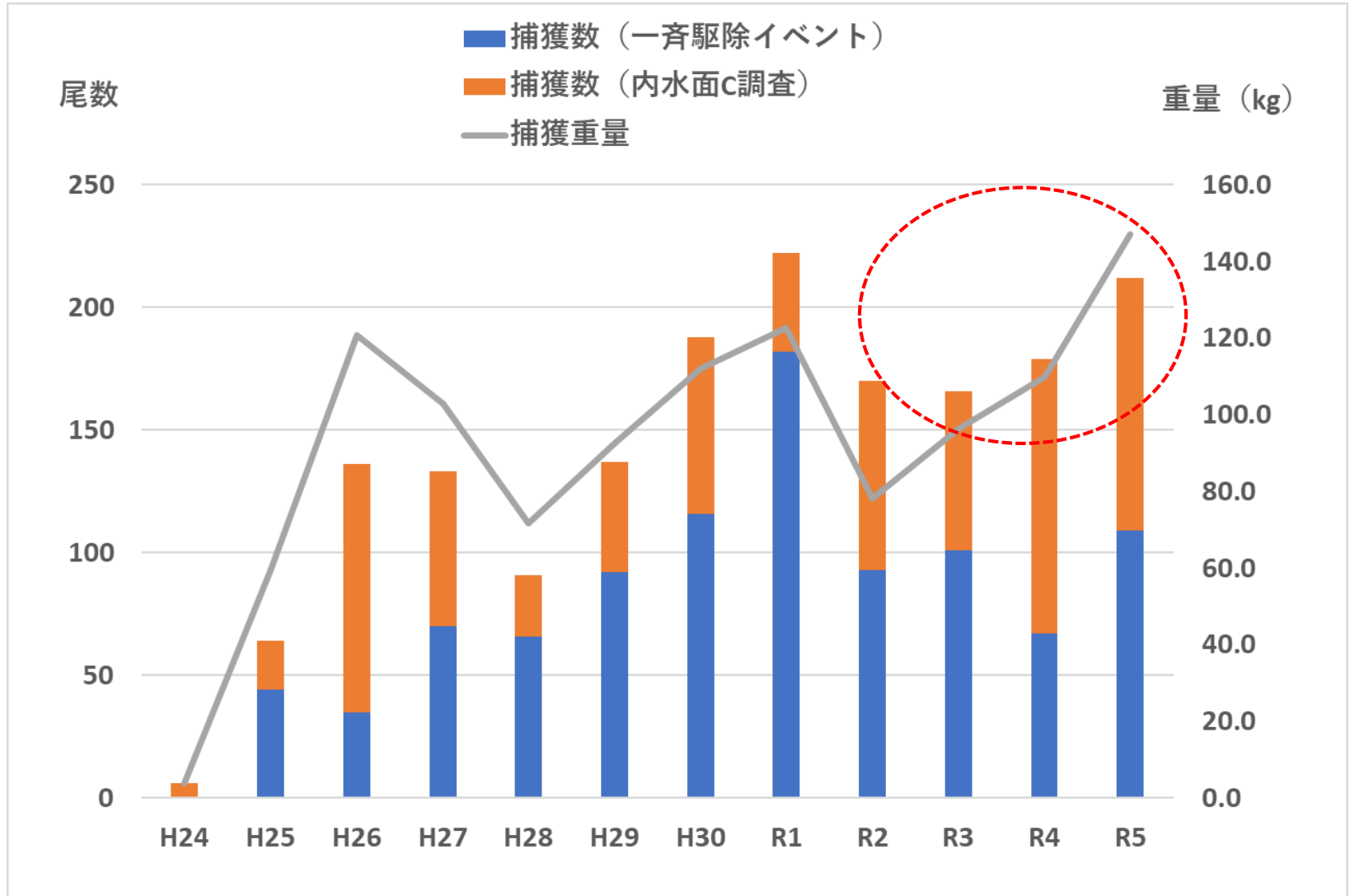
令和4年度に捕獲されたブルーギルの全長組成



令和5年度に捕獲されたブルーギルの全長組成

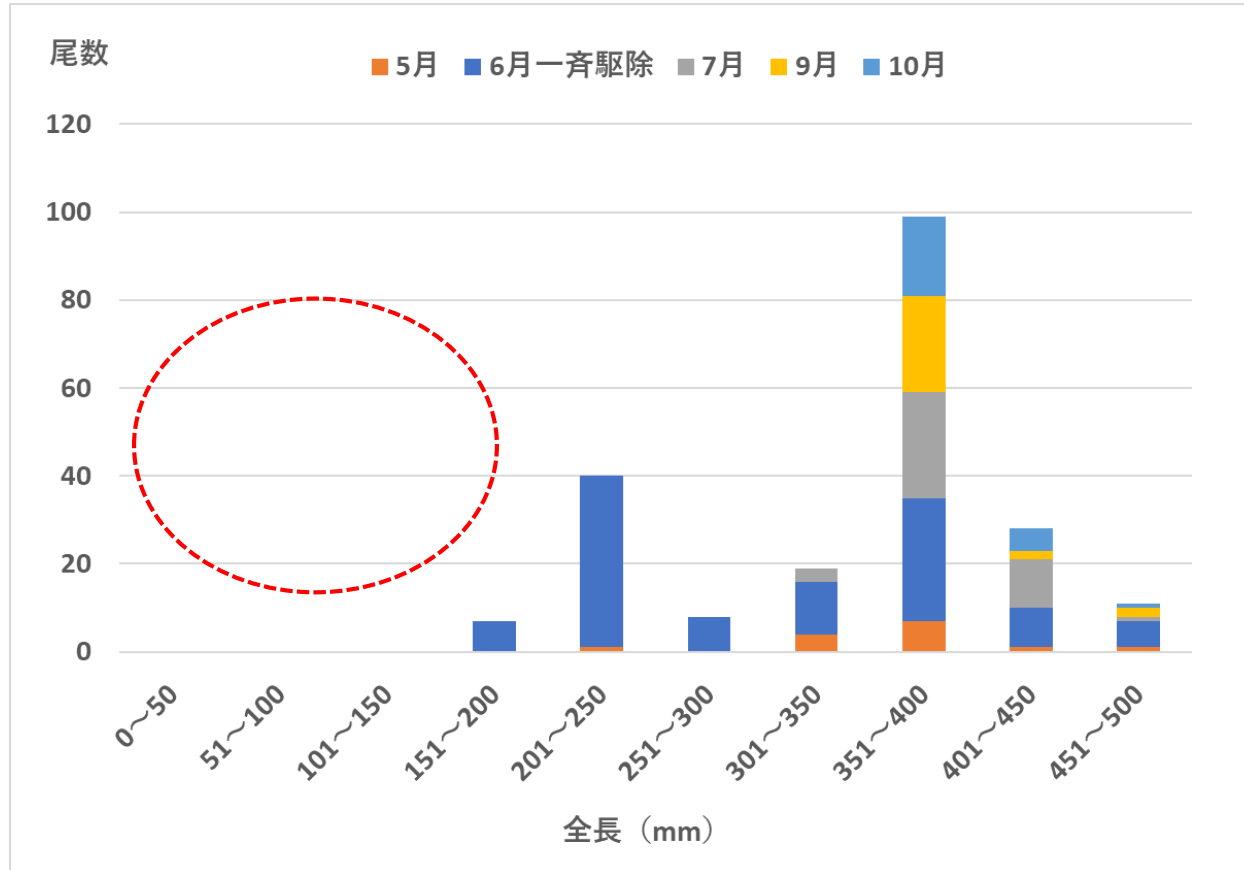
- ・ 親魚の捕獲の有無が捕獲重量に大きく作用
- ・ 捕獲数が少ないからといって安心はできない
(親魚が存在しており、リバウンドの可能性はある)

近年の調査状況（九頭竜湖コクチバス）



駆除を続けているが、捕獲数、重量ともに増加傾向にある

近年の調査状況（九頭竜湖コクチバス）



令和5年度に捕獲されたコクチバスの全長組成

- ・ 漁具特性により捕獲魚が300~400mm前後の個体に絞られる
- ・ 現在の内水面Cの手法では、200mm以下の小型魚の生息状況がつかめない
(小型個体の捕獲方法開発が今後の課題)

①内水面センターの調査状況

②外来魚の危険性について

③私たちにできること

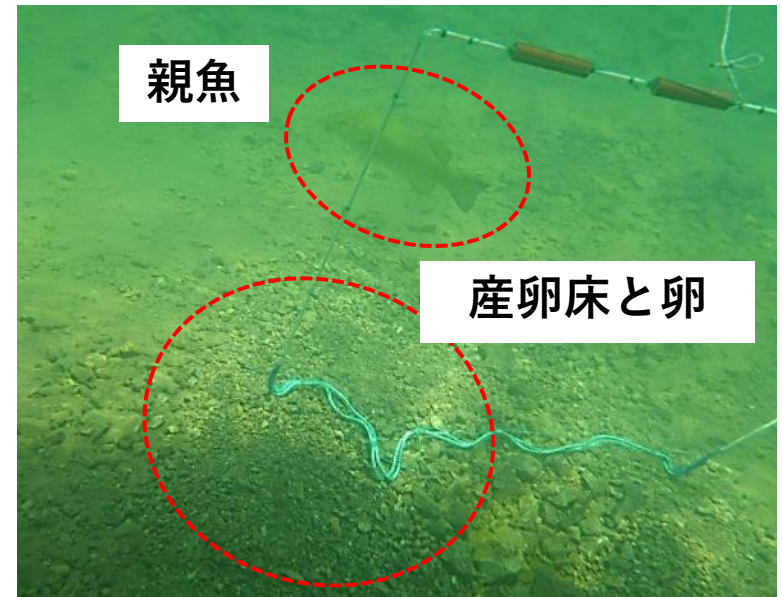
・外来魚は駆除すべきなのは分かるが、具体的にどう危ないのだろう？

・ナマズやスズキも肉食魚なのになぜ外来魚だけ駆除対象？



外来魚の危険性

- ・親魚が卵を保護する性質があり、稚魚が生き残りやすい
⇒繁殖能力が高い
- ・コクチバスは流れのある場所でも生息でき、産卵も可能である
⇒一度河川に侵入すると、またたく間に分布域が拡大する



産卵床を保護するコクチバス親魚
人間に対して威嚇する個体（左）・漁具を設置しても産卵床から逃げない個体（右）

外来魚が水産資源に及ぼす悪影響

- ・アユ、コイ、フナなど漁業対象となる魚が食害を受ける
⇒アユなどを放流しても魚が増えない
漁場に外来魚が侵入し釣りにならなくなる
- ・ナマズやサクラマスなどの在来肉食魚は生息場の占有、餌の競合という形で影響を受ける
⇒**外来魚に食べられないからといって影響が無い訳ではない**



オオクチバスの胃から
出てきたワカサギ



コクチバスの胃から
出てきたヤマメ

他県における事例

① 櫛田川（三重県）

- ・ 平成27年度にコクチバスが初確認され、令和2年度に確認個体数が急激に増加した（前年の5倍以上）。
- ・ 令和3年度の環境DNA調査では、河口1kmから河口40kmの範囲でコクチバスのDNAが検出された。

② 琵琶湖（滋賀県）

- ・ オオクチバス、ブルーギルの侵入に伴い、フナやホンモロコの漁獲量が著しく減少した。
- ・ 外来魚による食害・外来魚の混獲に伴う選別作業の増大が問題となっている。

参考：

- ・ 櫛田川コクチバス生息環境マップ～特定外来生物コクチバスから櫛田川の自然を守るための取り組み～ 櫛田川自然再生推進会議
- ・ 自然共生研究センターにおけるコクチバス研究の紹介～三重県櫛田川での取り組み～
- ・ I 外来魚対策の考え方 ②外来魚対策の必要性 国土交通省

他県における事例

③千曲川（長野県）

- ・平成14年ごろからコクチバスがみられるようになり、平成27年には**投網での採捕個体の43%**を占めるようになった。
- ・オイカワ・ウグイを対象に毛鉤釣りをしても、釣れる魚のほとんどがコクチバスとなる。

④内の倉ダム湖（新潟県）

- ・平成11年にコクチバスが初確認された。
- ・かつてはイワナ、フナ、ウグイなどがみられたが、平成24年は**コクチバスが優占種となり、ウグイなどの小型在来魚はほとんど確認されなかった。**

参考：

- ・千曲川でのコクチバス駆除に伴うオイカワ・ウグイの釣獲状況の改善 長野県水産試験場
- ・ポンプを用いたコクチバスの産卵床駆除技術の開発 新潟県内水面水産試験場

①内水面センターの調査状況

②外来魚の危険性について

③私たちにできること

内水面漁場を外来魚の脅威から守るために

① 駆除活動の継続

- ・日本の河川・湖沼では外来魚の天敵が少ないため、
個体数を減らすには人間による駆除活動が重要。
- ・水産課は内水面漁業協同組合の駆除活動の支援、内水面Cは生息状況の
モニタリング調査、駆除技術の開発を継続する必要がある。



内水面漁場を外来魚の脅威から守るために

②漁場の監視・広報

- ・密放流がきっかけで外来魚が侵入するケースが多い。
- ・一般市民も参加可能な駆除イベントの実施は、外来魚問題の普及・啓発に有効。

⇒**外来魚を歓迎していない姿勢を示すことが重要**



密放流は外来生物法違反となる
(3年以下の懲役もしくは
300万円以下の罰金)



令和5年6月に九頭竜湖で実施された
一斉駆除イベントの様子

漁協の皆様をお願いしたいこと

- ・ルアーやさぎり漁でコクチバスを捕獲した
- ・今まで見たことのない魚が捕れた

⇒再放流せずにその場で処分していただき、
当センターへ捕獲状況の報告をお願いします。

外来魚かどうか分からない場合は、魚体を当センターへ
持ち込んでいただくと詳しく調べることが可能です。



コクチバス成魚



コクチバス未成魚

※安曇野市公式ホームページより引用